

教育プログラム・コースの概要

大学名等	近畿大学大学院医学研究科						
教育プログラム・コース名	高度先端医学物理研究者養成コース						
対象職種・分野	医学研究科医学系専攻大学院生、医学物理士、診療放射線技師、臨床工学技士 等						
修業年限(期間)	4年						
養成すべき人材像	放射線治療・核医学治療および放射線診断におけるがん治療に精通した人材はもちろんのこと、医学物理学研究において、新規性、進歩性に富む企画立案・遂行・評価ができる。また、医工・産学連携から生まれた研究成果を社会実装につなげる、知的財産マネジメントができる人材を養成する。						
修了要件・履修方法	必修科目24単位以上、選択科目6単位以上、合計30単位以上を履修し、英語論文を発表すること。						
履修科目等	<必修科目> 腫瘍学Ⅰ 基盤講義(医療現場・学際領域)(2単位)、医療・画像情報学(2単位)、放射線医学物理(2単位)、放射線安全・放射線防護(2単位)、放射線医学総論(2単位)、高精度放射線治療学(2単位)、放射線腫瘍学総論(2単位)、解剖学・生理学概論(2単位)、放射線治療計画法演習(2単位)、放射線医学物理実習(6単位) <選択科目> 腫瘍学Ⅱ 横断講義(予防・研究開発)、放射線生物学(2単位)、放射線腫瘍学実習(2単位)、腫瘍画像診断学実習(2単位)						
がんに関する専門資格との連携	認定医学物理教育コース(博士課程)、日本放射線腫瘍学会認定施設、放射線科専門医総合修練機関認定施設						
教育内容の特色等(新規性・独創性等)	医療のニーズシーズに応える医工・産学連携研究を推進し、論文執筆、国際学会での発表、知財の申請から上市までのノウハウを学ぶ。高度医療へ物理的側面から貢献できる人材を広域から募集し、地域の均てん化も目指す。						
指導体制	医学物理士4名(常勤2名、非常勤2名)、放射線腫瘍医5名が中心となって教育を担う。その他、腫瘍内科医1名、放射線診断医1名、解剖学医1名、生理学医1名が講義・実習を行う。						
修了者の進路キャリアパス	医学博士を取得後、がん治療の専門性を保ちつつ、医学物理領域で臨床に即した柔軟な応用力を発揮し、地域そして国際的な本領域のオピニオンリーダーや機器開発責任者を担うことができる。病院もしくは国内外のメーカーでの勤務。						
受入開始時期	令和6年4月						
受入目標人数	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
	0	2	2	2	2	2	10
受入(養成)目標人数設定の考え方・根拠	過去の本コース大学院満期修了者18名(2013年から2023年現在まで)、在校生5名(2023年現在)の数と広域からの志願者を見込めるため、受け入れ可能人数を各年2名と設定した。						